

2023. **7**
No. **222**

調査レポート

県内勤労者の消費・貯蓄動向 ～第69回くらしのアンケートから～

要	約	1
1	家計の状況	3
2	耐久消費財の購入状況	4
3	外食	6
4	貯蓄	7
5	ローン等の利用	8
6	夏季ボーナス	10
7	お中元	11
8	夏休みの過ごし方	13
	(特別調査) 物価上昇・キャッシュレス決済関連	14

要 約

1. 家計の状況

- 1年前と比べた暮らし向きは、「良くなった」が7.6%、「悪くなった」が27.1%、「変わらない」が65.3%となった。この結果、「良くなった」から「悪くなった」を引いた差は△19.5。物価高騰が続くなかで家計の負担感は増しており、県内勤労者の生活実感は悪化。
- 家計上の悩み（3項目選択）は、「物価上昇」が1位となり、以下、「収入の伸び悩み」、「税金負担増」の順。

2. 耐久消費財の購入状況

- 耐久消費財の普及状況は、「スマートフォン」、「パソコン」、「カーナビゲーション」の順。
- 今後半年以内に購入希望のある耐久消費財は「スマートフォン」が最も多く、以下、「4K・8Kテレビ」、「パソコン」の順。

3. 外 食

- 外食は、毎月1回以上の利用が71.9%で、昨夏（63.7%）と比較すると8.2ポイントの上昇。
- よく利用する店舗は、「ファミリーレストラン」が最多で、以下、「回転寿司」、「中華料理・ラーメン店」の順。

4. 貯 蓄

- 平均貯蓄額は482万円で、昨夏と比べて52万円減少。

- 現在利用している金融商品は、「銀行預金」、「ゆうちょ銀行貯金」、「生命保険」の順。今後増やしたい金融商品は、「銀行預金」、「投資信託」、「株式」の順。
- 貯蓄する際重視する点は「元金の保証があり安心」が最多で、以下、「利回りが良い」、「預け入れ引き出しが自由」の順。

5. ローン等の利用

- ローン等の利用者は29.0%で、平均借入額は1,318万円。
- 利用目的は「土地・住宅の購入」が最も多く、以下、「自動車・家電品の購入」、「旅行・レジャー」の順。
- 借入先は「銀行（メガバンク・地方銀行）」が最も多く、以下、「月賦・クレジット会社」、「ネット銀行」の順。
- 借入先を選択する理由は、ローン利用者、未利用者ともに「金利の低さ」が1位で、2位はローン利用者が「事務手続きが簡単」、未利用者が「手数料負担が少ない」。

6. 夏季ボーナス

- 夏季ボーナスの予想は、「減りそう」が「増えそう」を上回ったものの、両比率の差は縮小。賃金など労働条件の改善を背景に勤労者のボーナスに対する厳しい見方も緩和。
- 平均手取り予想額は37万3千円で昨夏と比べて1万円増加。
- 使いみちは「貯蓄」が最も多く、以下、「買物」、「ローン返済」の順。

7. お中元

- お中元を贈る予定者は、全体の 29.4%。贈る件数は「2 件以下」が最も多く、平均件数は 2.8 件で昨夏と同水準。
- 1 件あたりの単価は、「3,000 円程度」が最多。平均単価は 3,875 円（昨夏 4,027 円）、平均予算総額は 10,850 円（同 11,276 円）と、ともに昨夏に比べて減少。
- 贈りたい商品は「ビール」（含むビール券）が最多で、以下、「ハム・ソーセージ」、「お菓子・スイーツ」、「果物」の順。

8. 夏休みの過ごし方

- 「特に予定なし」が最も多く、以下、「日帰り旅行」、「国内宿泊旅行」、「帰郷」、「アウトドア」、「スポーツ・健康づくり」、「海外旅行」の順。
- 「国内宿泊旅行」の宿泊日数は「1 泊」が最多となり、平均宿泊日数は 2.0 泊と昨夏（1.8 泊）から増加。

● 調査実施要領

調査対象：インターネット調査会社にモニター登録されている県内の勤労者 551 名

調査方法：調査会社モニターあての Web アンケート調査

調査時期：2023 年 6 月上旬

(特別調査) 物価上昇、キャッシュレス決済関連

物価上昇に対する対策とキャッシュレス決済の利用状況について調査を実施。

- 物価上昇に対し取り組んでいる対策（複数回答）については、「食費の節約」が最多で、以下、「ポイントの活用」、「光熱費の節約」の順。一方、「対策をしていない」は 22.1%。
- キャッシュレス決済の利用状況は、「利用している」が 78.0%、「利用したことはない」が 16.9%、「利用したことがあるが、現在は利用していない」が 5.1%。
- キャッシュレス決済の利用頻度は、「ほぼすべて」が 54.7%、「現金決済と同程度」が 33.7%、「特定の場面のみ」が 11.6%。

〈 回 答 者 内 訳 〉

内訳	項 目	回答者数	構成比
年 代 別	20 代	110人	20.0%
	30 代	112	20.3
	40 代	164	29.8
	50 代 以 上	165	29.9
家 族	既 婚	303	55.0
	未 婚	248	45.0
性 別	男 性	367	66.6
	女 性	184	33.4
合 計		551	100.0

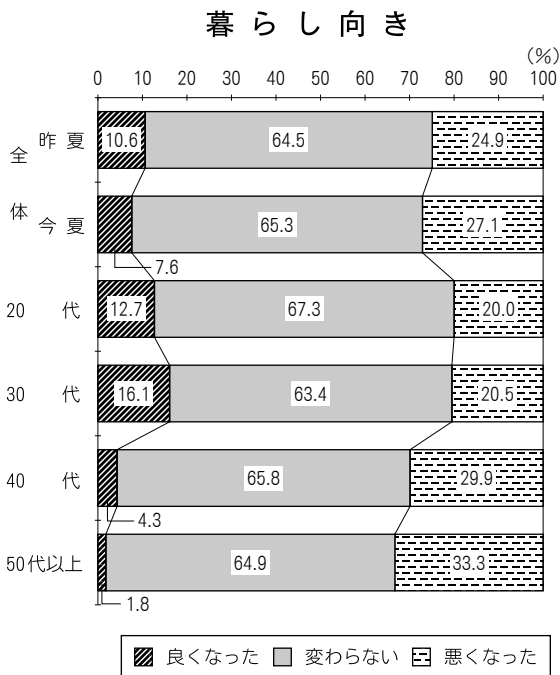
1 家計の状況

生活実感は悪化傾向

1年前と比べた暮らし向きは、「良くなった」が7.6%、「悪くなった」が27.1%、「変わらない」が65.3%となった。この結果、「良くなった」から「悪くなった」を引いた差は△19.5となった。

県内景気は、製造業で一部に弱い動きがみられるものの、経済活動の正常化に伴い非製造業が持ち直しており、企業のボーナス支給見通しも改善傾向にある。しかしながら、食料品や光熱費などの物価高騰が続くなかで家計の負担感が増していることから、県内勤労者の生活実感は悪化している。

年代別にみると、40代、50代以上は「良くなった」の回答が各々4.3%、1.8%にとどまったのに対して、「悪くなった」が各々29.9%、33.3%となっており、主に中・高年層で暮らし向きの厳しさを強く感じている様子が窺われる。また、昨夏と比べると、どの年代も「良くなった」の回答比率が低下している。

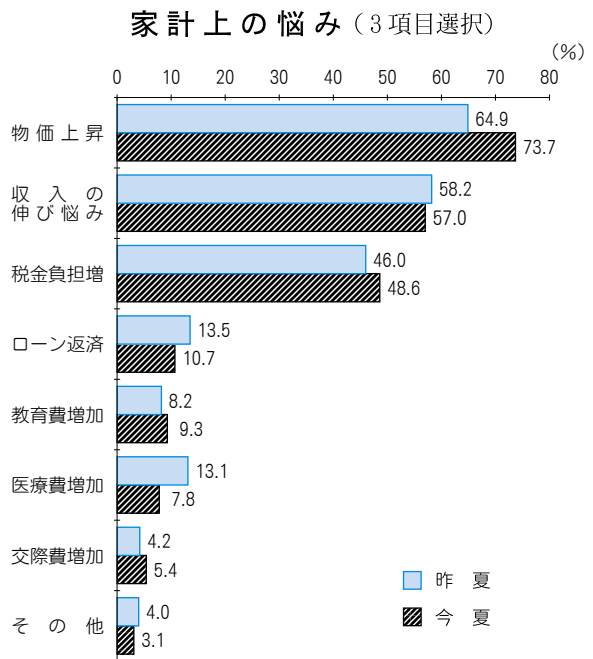


家計上の悩みは「物価上昇」が引き続き1位

家計上の悩み（3項目選択）は、「物価上昇」が73.7%と最も多く、以下、「収入の伸び悩み」（57.0%）、「税金負担増」（48.6%）と続いた。

このうち「物価上昇」は昨夏（64.9%）と比較して8.8ポイント上昇した。原油などのエネルギーや食料品など生活必需品の価格上昇が、家計に影響している様子が窺われる。なお、この比率（73.7%）は昨冬（73.2%）を超え、「物価上昇」としては平成元年の調査開始以降最も高い水準となった。

昨夏と比較すると、比率が上昇した項目は「物価上昇」、「税金負担増」、「交際費増加」、「教育費増加」であった。一方、比率が低下した項目は「医療費増加」、「ローン返済」、「収入の伸び悩み」であった。



2 耐久消費財の購入状況

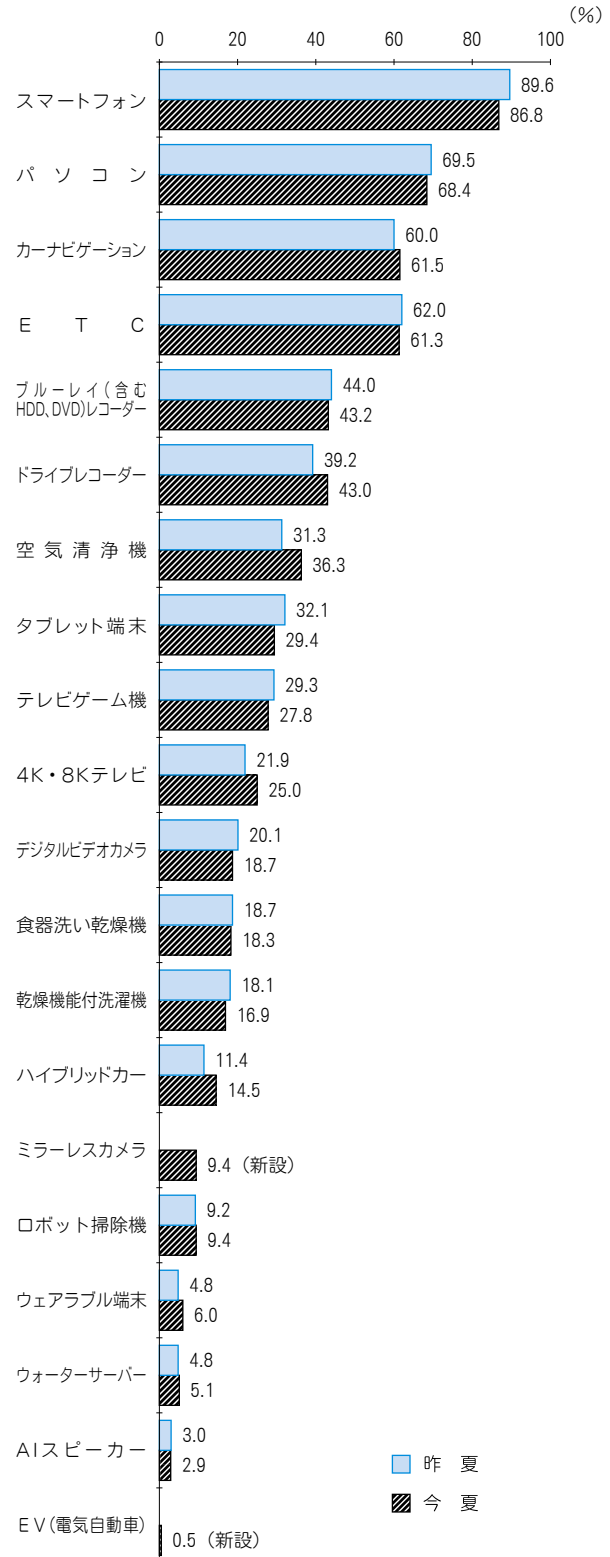
普及率は「スマートフォン」がトップ

耐久消費財のうち、主要家電品など 20 品目についてその普及状況を見ると、「スマートフォン」(86.8%)、「パソコン」(68.4%)、「カーナビゲーション」(61.5%)、「ETC」(61.3%)の順となった。

昨夏と比較すると、「空気清浄機」(昨夏比+5.0ポイント)、「ドライブレコーダー」(同+3.8ポイント)、「4K・8Kテレビ」・「ハイブリッドカー」(同+3.1ポイント)などの比率が上昇した一方、「スマートフォン」(同△2.8ポイント)、「タブレット端末」(同△2.7ポイント)、「テレビゲーム機」(同△1.5ポイント)などの比率は低下した。

なお、今回新設した2項目についてみると、「ミラーレスカメラ」(9.4%)が15位となっており、特に30代(16.2%)で普及が進んでいる様子が窺われた。一方、「EV(電気自動車)」は0.5%で20位となった。14位の「ハイブリッドカー」も14.5%にとどまっており、2050年のカーボンニュートラル(温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする)実現に向けてEVやハイブリッドカーの利用拡大が期待されるなか、足元の普及率は低位となっている。

耐久消費財の普及状況



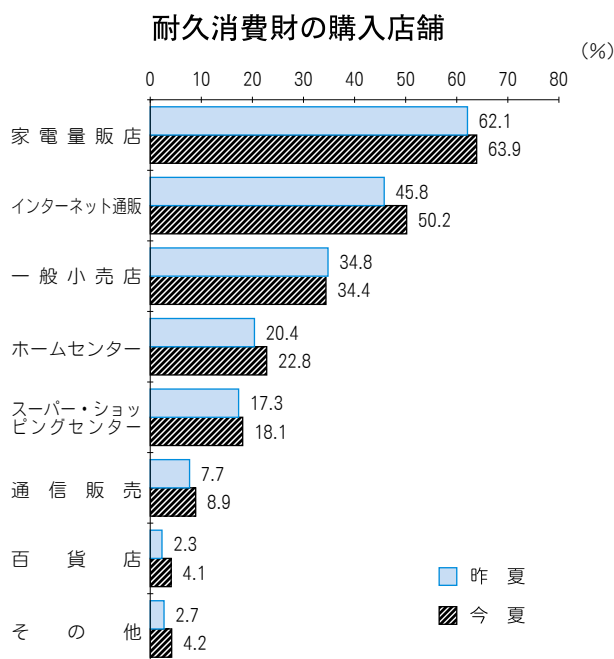
購入店舗は「家電量販店」がトップ

耐久消費財を購入した店舗（複数回答）は「家電量販店」が最も多く、以下、「インターネット通販」、「一般小売店」、「ホームセンター」、「スーパー・ショッピングセンター」の順となった。

上位項目をみると、「家電量販店」（63.9%）の購入比率は、2位の「インターネット通販」（50.2%）を13.7ポイント上回っており、耐久消費財が主に家電量販店で購入されている状況が続いている。一方、2位の「インターネット通販」も昨夏から4.4ポイント上昇し5割を超えており、ネットショップの利用が広く浸透してきている様子が窺われる。

その他の項目をみると、順位は昨夏と変化がみられないが、「一般小売店」の比率が0.4ポイント低下した以外は、すべての店舗で比率が上昇した。

年代別に利用率をみると、「インターネット通販」、「通信販売」とともに50代以上の比率が最も高くなっている。

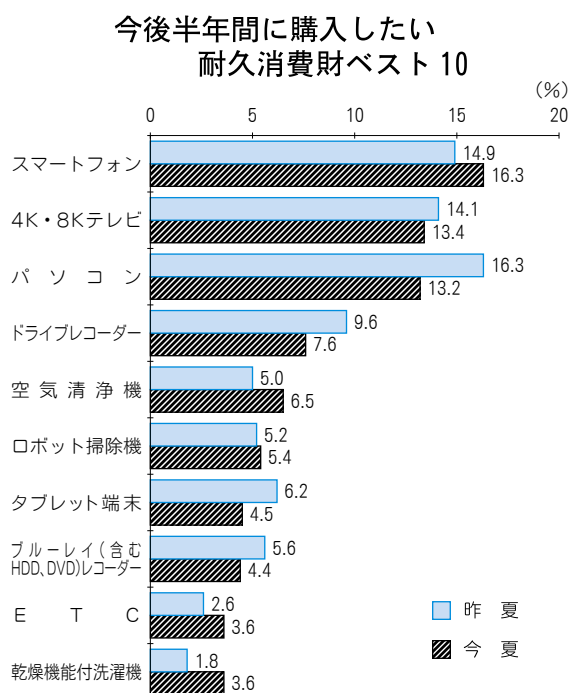


購入希望も「スマートフォン」が最多

今後半年以内に購入希望のある耐久消費財（複数回答、3品目以内）をみると、1位は「スマートフォン」（16.3%）で、以下、「4K・8Kテレビ」（13.4%）、「パソコン」（13.2%）、「ドライブレコーダー」（7.6%）の順となった。

上位品目の動きをみると、「スマートフォン」は20代、30代、40代で1位となっており、昨夏から1.4ポイント上昇し、2位から1位に順位を上げた。また、すべての年代で2位となった「4K・8Kテレビ」は昨夏から0.7ポイント低下したものの、3位から2位に順位を上げた。一方、「パソコン」は昨夏から3.1ポイント低下し、順位も1位から3位に後退した。

上位品目以外の動きをみると、比率が上昇した品目は「乾燥機能付洗濯機」、「空気清浄機」、「ETC」などであった。一方、低下した品目は「ドライブレコーダー」、「タブレット端末」などであった。



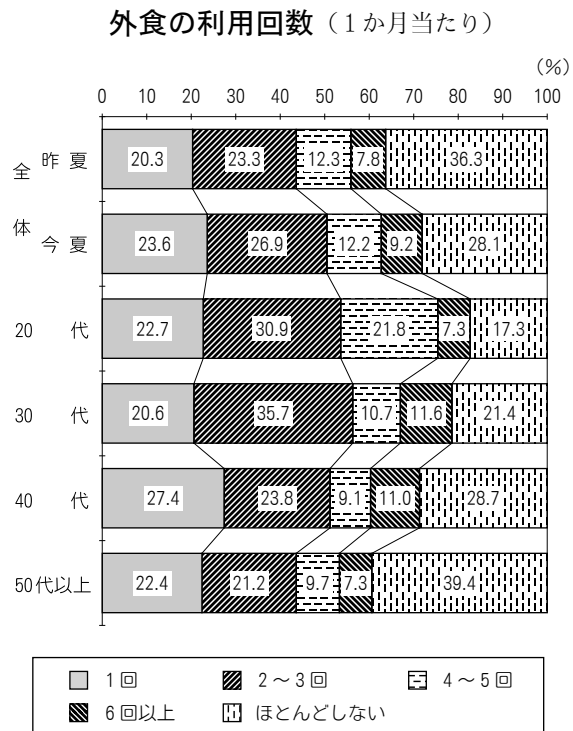
3 外 食

外食の利用率が上昇傾向

家族での外食の利用状況を見ると、全体の71.9%が毎月1回以上利用している。昨夏(63.7%)と比較すると8.2ポイントの上昇となった。コロナ前の水準(2019年夏:82.0%)には及ばないものの、2020年夏(37.9%)、2021年夏(62.7%)、2022年夏(63.7%)と上昇傾向で推移しており、コロナ禍で落ち込んだ外食需要が戻りつつある様子が窺われる。

内訳をみると、「ほとんどしない」が28.1%と最多で、以下、「月2~3回」(26.9%)、「月1回」(23.6%)、「4~5回」(12.2%)、「6回以上」(9.2%)の順となっている。

なお、外食の利用状況を年代別にみると、毎月1回以上利用している割合は20代が82.7%、30代が78.6%、40代が71.3%、50代以上が60.6%となっており、年代が低いほど、外食を利用する傾向がみられる。



利用店舗は「ファミリーレストラン」がトップ

よく利用する店舗(3項目以内)は、「ファミリーレストラン」(46.5%)が最多で、以下、「回転寿司」(38.5%)、「中華料理・ラーメン店」(32.5%)、「ファストフード」(32.3%)、「居酒屋」・「和食専門店」(同順位16.2%)と続いた。

1位から4位までは昨夏と変わらず、昨年6位の「居酒屋」、8位の「和食専門店」が5位に順位を上げた。一方、昨年5位の「焼肉店」が7位に後退したほか、「カフェ」も順位を一つ下げた。

年代別にみると、すべての年代で1位が「ファミリーレストラン」、2位が「回転寿司」となった。3位は20代、30代が「ファストフード」で、40代以上は「中華料理・ラーメン店」となった。

よく利用する外食店舗 (3項目選択)

	昨夏	今 夏				
	全体	全体	20代	30代	40代	50代以上
ファミリーレストラン	46.4	46.5	49.1	54.5	39.0	46.7
回 転 寿 司	43.8	38.5	40.9	42.0	36.6	36.4
中 華 料 理・ ラ ー メ ン 店	32.1	32.5	28.2	27.7	36.0	35.2
フ ァ ス ト フ ー ド	31.1	32.3	38.2	41.1	29.3	25.5
居 酒 屋	12.9	16.2	12.7	12.5	19.5	17.6
和 食 専 門 店	12.4	16.2	16.4	18.8	10.4	20.0
焼 肉 店	16.1	13.8	18.2	12.5	14.6	10.9
カ フ ェ	12.7	11.8	19.1	14.3	11.6	5.5
洋 食 専 門 店	6.0	8.7	10.9	5.4	9.1	9.1
そ の 他	2.8	2.4	0.9	0.0	3.0	4.2

4 貯蓄

平均貯蓄額は482万円

現在の貯蓄額の平均額は482万円（昨夏534万円）で昨夏と比べて52万円減少した。年代別に貯蓄額の平均額をみると、20代が234万円、30代が498万円、40代が526万円、50代以上が592万円となっている。

貯蓄額の分布をみると、「100万円以下」が最多で、以下、「101万円～200万円」、「2,001万円以上」、「201万円～300万円」、「401万円～500万円」の順となった。

利用している金融商品（複数回答）は、「銀行預金」が85.7%と最も多く、以下、「ゆうちょ銀行貯金」、「生命保険」、「個人年金」、「投資信託」、「株式」の順となった。

年代別に利用率をみると、「銀行預金」はすべての年代で8割超となっている。また、「ゆうちょ銀行貯金」は年代が高いほど利用率が上昇している。

今後増やしたい金融商品も「銀行預金」が最多

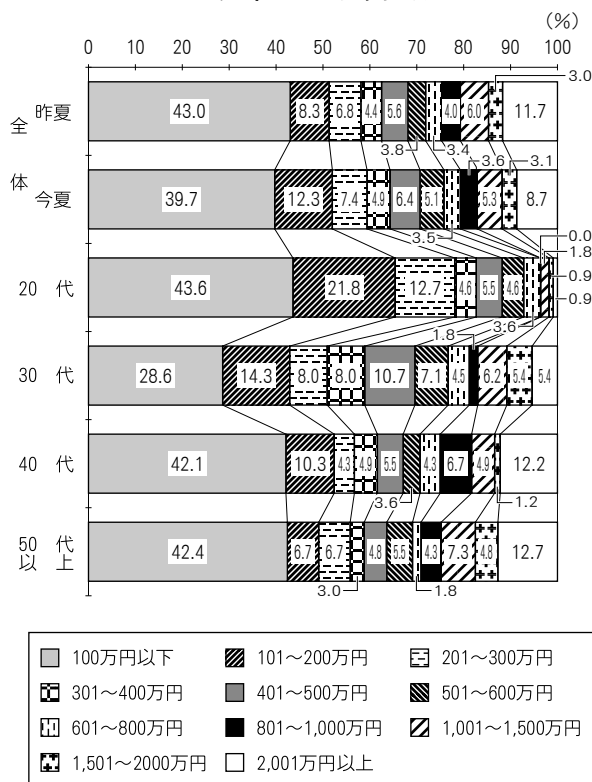
今後増やしたい金融商品（複数回答）は「銀行預金」が最多で、以下、「投資信託」、「株式」、「ゆうちょ銀行貯金」、「個人年金」の順となった。

年代別にみると、1位は各年代とも「銀行預金」で、2位は40代が「ゆうちょ銀行貯金」となった以外は「投資信託」となった。

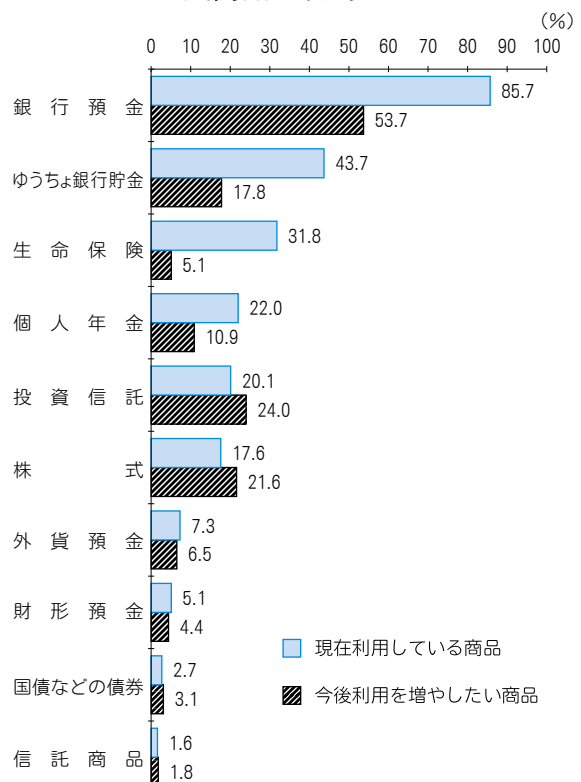
貯蓄をする際、重視する点（3項目選択）は、「元金の保証があり安心」が最多で、以下、「利回りが良い」、「預け入れ引き出しが自由」、「値上がり期待できる」、「利用金融機関が自宅から近い」の順となっている。

年代別にみると、30代以下が「利回りが良い」、40代以上は「元金の保証があり安心」が1位となった。2位は20代が「元金の保証があり安心」、30代が「預け入れ引き出しが自由」、40代以上は「利回りが良い」となっている。

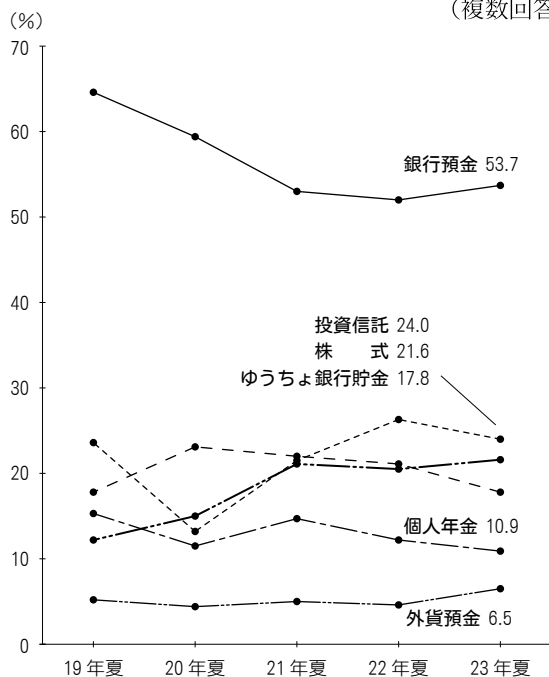
現在の貯蓄額



金融商品の利用（複数回答）



今後増やしたい金融商品の推移
(複数回答)



貯蓄する際重視する点 (3項目まで選択)

	全体	20代	30代	40代	50代以上	昨夏順位
元金の保証が安心	48.6	39.1	41.1	50.6	58.2	1
利回りが良い	46.1	47.3	49.1	45.1	44.2	2
預け入れ引き出しが自由	39.7	34.5	42.0	44.5	37.0	3
値上がり期待できる	27.4	25.5	31.3	26.8	26.7	4
利用金融機関が自宅から近い	13.6	15.5	15.2	14.0	10.9	5
利用金融機関のサービスが良い	9.3	12.7	11.6	6.1	8.5	6
利用金融機関が勤務先から近い	5.4	5.5	6.3	5.5	4.8	7
利用金融機関に友人、知人がいる	3.1	5.5	5.4	1.8	1.2	9
勤務先が利用金融機関と取引している	2.5	0.9	0.9	6.1	1.2	7
利用金融機関が集金にきてくれる	1.5	1.8	0.9	1.8	1.2	10
その他	1.8	2.7	1.8	1.2	1.8	-

5 ローン等の利用

平均借入額は1,318万円

ローン等の利用状況を見ると、利用者は29.0%で、平均借入額は1,318万円となった。

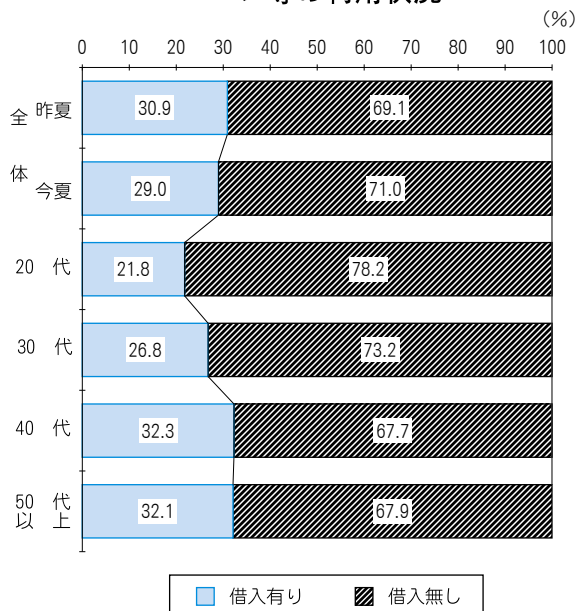
利用目的(複数回答)は、「土地・住宅の購入」が最も多く、以下、「自動車・家電品の購入」、「旅行・レジャー」と続いた。昨夏と比較すると、「土地・住宅の購入」、「自分の教育資金」、「旅行・レジャー」、「子や孫への教育資金」の比率が上昇した一方、「自動車・家電品の購入」、「教育資金以外の生活資金」は低下した。

借入先(複数回答)は、「銀行(メガバンク・地方銀行)」が最も多く、以下、「月賦・クレジット会社」、「ネット銀行」、「銀行以外の金融機関」の順となった。昨夏と比較すると、「政府系金融機関」、「勤務先」、「銀行以外の金融機関」の比率が上昇した一方、「月賦・クレジット会社」は低下した。なお、昨冬以降、「銀行」を「銀行(メガバンク・地方銀行)」と「ネット銀行」に変更している。

これらを年代別にみると、ローン利用者の割合は、年齢が上がるほど高くなる傾向がみられ、平均借入額は、20代が874万円、30代が2,352万円、40代が1,360万円、50代以上が890万円となった。マイホームや教育資金などの需要が高まる30代、40代で平均借入額が高くなっている。

また、すべての年代で、利用目的は「土地・住宅の購入」が、借入先は「銀行(メガバンク・地方銀行)」が最多となっている。

ローン等の利用状況



「金利の低さ」を重視する傾向

借入先を選択する理由（複数回答）は、ローン利用者、未利用者ともに「金利の低さ」が最も多くなった。

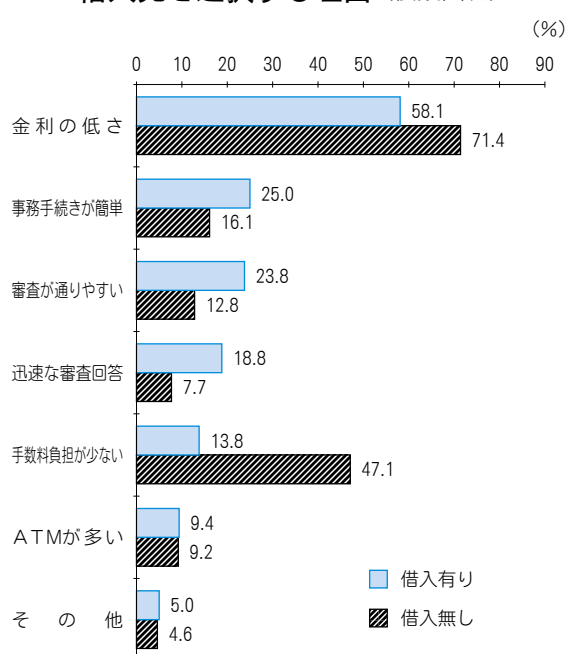
ローン利用者の2位以下の順位は、「事務手続きが簡単」、「審査が通りやすい」、「迅速な審査回答」と続いた。これらを年代別にみると、すべての年代で1位は「金利の低さ」となり、2位は、20代が「事務手続きが簡単」、30代以上は「事務手続きが簡単」・「審査が通りやすい」（同順位）となっている。

一方、未利用者の2位以下の順位は、「手数料負担が少ない」、「事務手続きが簡単」、「審査が通りやすい」と続いた。

ローン等の借り入れ先・利用目的（複数回答）

		全体	20代	30代	40代	50代以上
利用目的	土地・住宅の購入	54.4	41.7	60.0	54.7	56.6
	自動車・家電品の購入	25.6	25.0	30.0	18.9	30.2
	旅行・レジャー	11.3	12.5	13.3	13.2	7.5
	教育資金以外の生活資金	10.6	4.2	6.7	11.3	15.1
	自分の教育資金	10.0	29.2	6.7	7.5	5.7
	子や孫への教育資金	6.3	4.2	0.0	9.4	7.5
	その他	4.4	0.0	0.0	7.5	5.7
借入先	銀行（メガバンク・地方銀行）	51.3	62.5	56.7	41.5	52.8
	月賦・クレジット会社	21.3	29.2	16.7	20.8	20.8
	ネット銀行	14.4	4.2	13.3	13.2	20.8
	銀行以外の金融機関	11.9	4.2	6.7	17.0	13.2
	住宅金融支援機構等 政府系金融機関	11.3	8.3	16.7	7.5	13.2
	勤務先	3.1	0.0	3.3	3.8	3.8
	その他	5.0	12.5	0.0	3.8	5.7

借入先を選択する理由（複数回答）



6 夏季ボーナス

20代の手取り予想額は増額が減額を上回る

昨夏と比べた今夏の手取り額（手取り額）の予想は、「増えそう」が10.8%、「減りそう」が20.3%となり、引き続き「減りそう」が「増えそう」を上回った。

ただし、両比率の差（「増えそう」－「減りそう」）は△9.5と、昨夏の△15.7から6.2ポイント縮小している。物価高などにより家計が厳しい状況のなか、企業が賃金など労働条件の改善を図る動きが広がっており、勤労者のボーナスに対する厳しい見方も緩和されてきている。

なお、年代別にみると、30代以上で「減りそう」の比率が「増えそう」の比率を上回った一方、20代は「増えそう」の比率が「減りそう」の比率を上回っている。また、昨夏との比較では、各年代とも「減りそう」の比率が低下している。

平均手取り予想額は37万3千円

手取り予想額は、「1～20万円」が最も多く、以下、「21～30万円」、「31～40万円」、「41～50万円」の順となった。

また、平均手取り予想額は37万3千円（昨夏36万3千円）で、昨夏と比べて1万円の増加となった。

年代別にみると、20代が34万1千円、30代が38万円、40代が37万2千円、50代以上が39万4千円となっている。

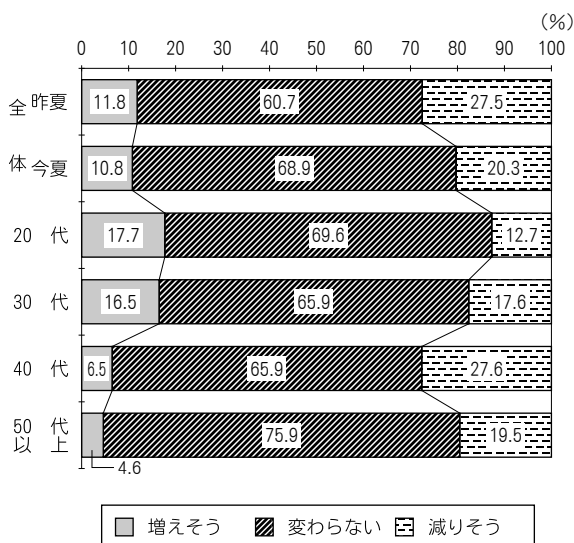
「貯蓄」の優位姿勢は変わらず

ボーナスの使いみちは、「貯蓄」の比率が最も高く、以下「買物」、「ローン返済」、「旅行・レジャー」、「教育費」の順となった。

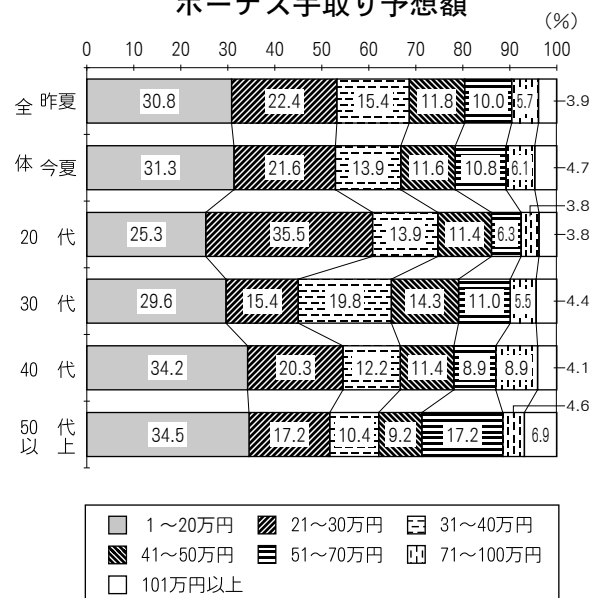
昨夏と比較すると、各比率に大きな変動はみられなかった。なお、「貯蓄」への配分はやや低下したものの、依然として6割弱を占めている。

年代別にみると、すべての年代で1位は「貯蓄」となった。2位は50代以上で「ローン返済」となった以外は、すべての年代で「買物」となった。3位は20代、30代が「旅行・レジャー」、40代が「ローン返済」、50代以上が「買物」となっている。昨夏と比較すると、20代で「旅行・レジャー」、「買物」の上昇、30代で「買物」の上昇、50代以上で「ローン返済」の上昇、「買物」の低下が各々目立っている。

夏季ボーナス増減予想

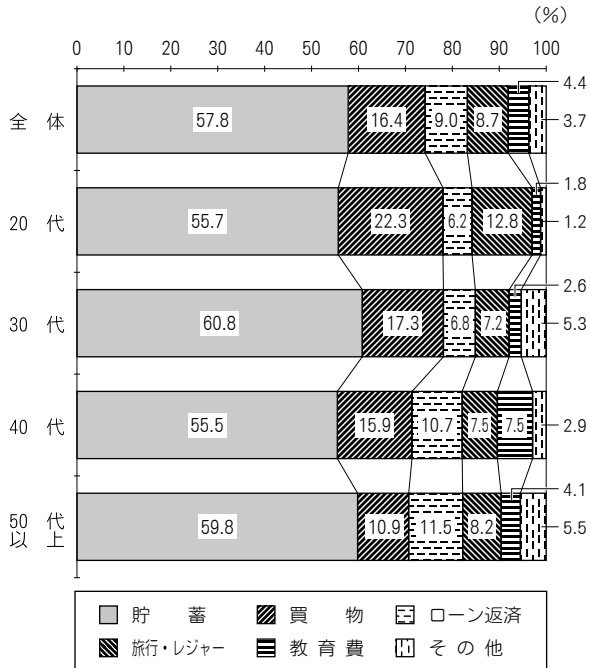


ボーナス手取り予想額

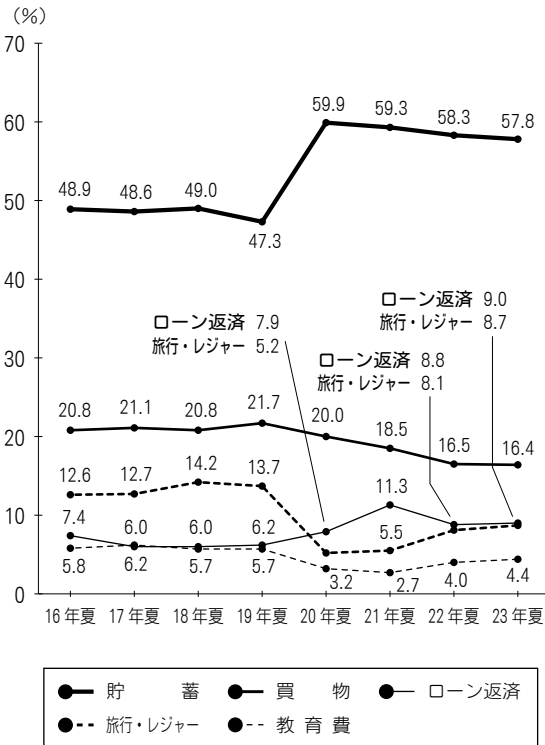


7 お中元

ボーナスの使いみち



ボーナスの使いみちの推移



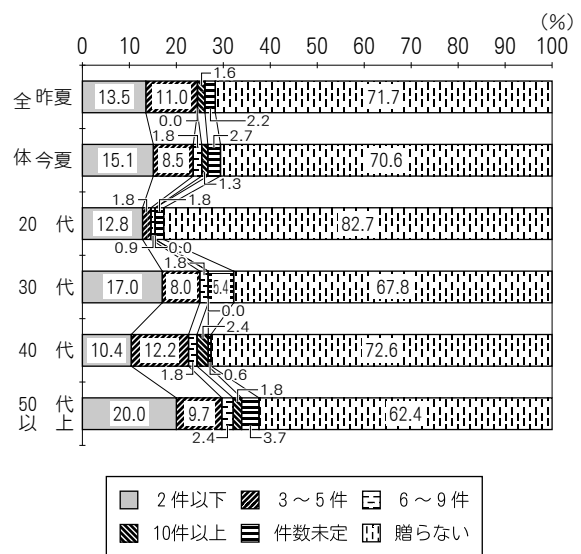
贈る件数は平均 2.8 件

今夏、お中元を贈る予定のある人は 29.4% で、昨夏 (28.3%) と比べて 1.1 ポイント上昇した。

贈る件数は「2 件以下」が最も多く、以下、「3～5 件」、「件数未定」、「6～9 件」、「10 件以上」の順となった。平均贈答件数は 2.8 件 (昨夏 2.8 件) で昨夏と同水準となった。

年代別にみると、贈る予定のある人の比率は 20 代が 17.3% (昨夏比 + 3.0 ポイント)、30 代が 32.2% (同 + 1.7 ポイント)、40 代が 27.4% (同 + 0.7 ポイント)、50 代以上が 37.6% (同 + 2.4 ポイント) となり、すべての年代で上昇した。

お中元を贈る件数



平均単価は 3,875 円、平均予算は 10,850 円

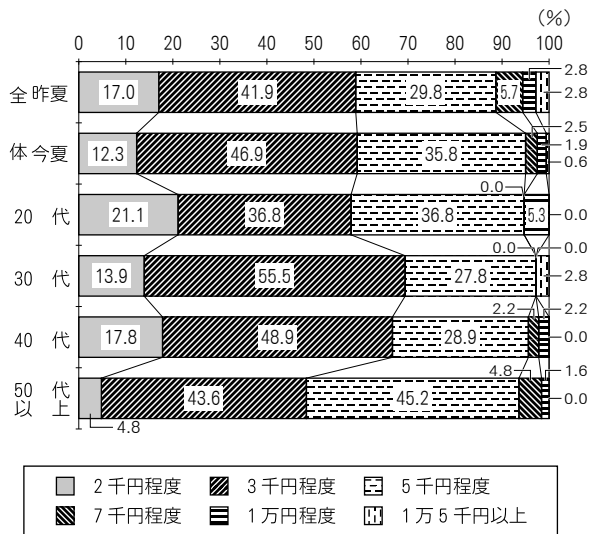
1 件あたりの単価は、「3,000 円程度」が 46.9% と最も多く、次いで「5,000 円程度」が 35.8% となっており、この両方で 8 割強を占めた。

また、平均単価は 3,875 円 (昨夏 4,027 円)、平均予算総額は 10,850 円 (同 11,276 円) となった。

なお、年代別の平均単価は、20 代が 3,393 円、30 代が 3,767 円、40 代が 3,636 円、50 代以上が 4,241 円となっており、平均予算総額は、各々 5,768 円、8,663 円、13,091 円、11,875 円となった。

お中元の相場

(1件当たり平均単価)



贈りたい商品は「ビール」が最多

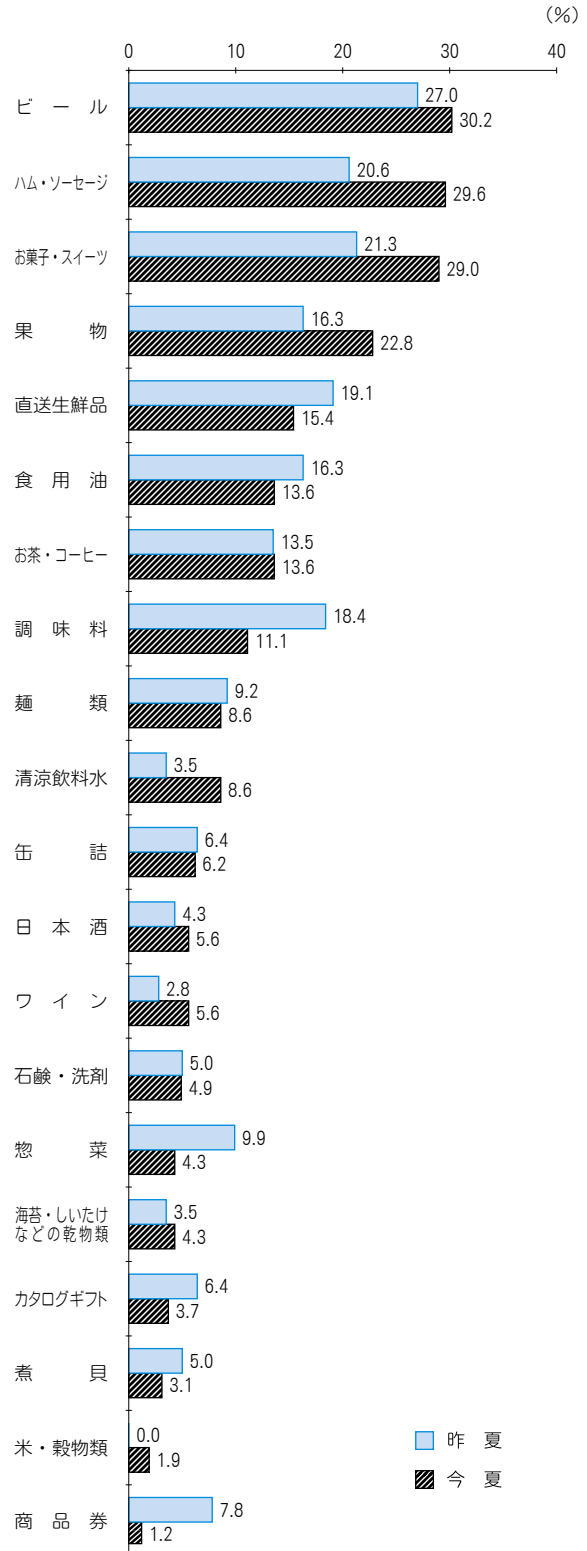
お中元に贈りたい商品(5品目まで選択)は、「ビール」(含むビール券、以下同じ)が最多で、以下、「ハム・ソーセージ」、「お菓子・スイーツ」、「果物」、「直送生鮮品」の順となった。昨夏と比較すると「ビール」が3.2ポイント上昇し、引き続き1位となった。また、昨夏3位の「ハム・ソーセージ」(昨夏比+9.0ポイント)が2位、6位の「果物」(同+6.5ポイント)が4位に順位を上げた一方、昨夏2位の「お菓子・スイーツ」は、7.7ポイント上昇したものの3位に後退した。そのほか、昨夏4位、5位の「直送生鮮品」、「調味料」が各々5位、8位に順位を下げた。

今夏お中元に贈りたいもののベスト5(年代別)

順位	20代	30代	40代	50代以上
1	ビール (含むビール券)	お菓子・スイーツ	ビール (含むビール券)	ハム・ソーセージ
2	お菓子・スイーツ お茶・コーヒー	ビール (含むビール券)	ハム・ソーセージ	お菓子・スイーツ
3		ハム・ソーセージ	お菓子・スイーツ 果物	果物
4	ハム・ソーセージ 果物	食用油		ビール (含むビール券)
5		調味料	お茶・コーヒー 食用油、日本酒	直送生鮮品

お中元に贈りたいもの

(5品目まで選択)



8 夏休みの過ごし方

夏休みの計画をたてる回答の割合が増加

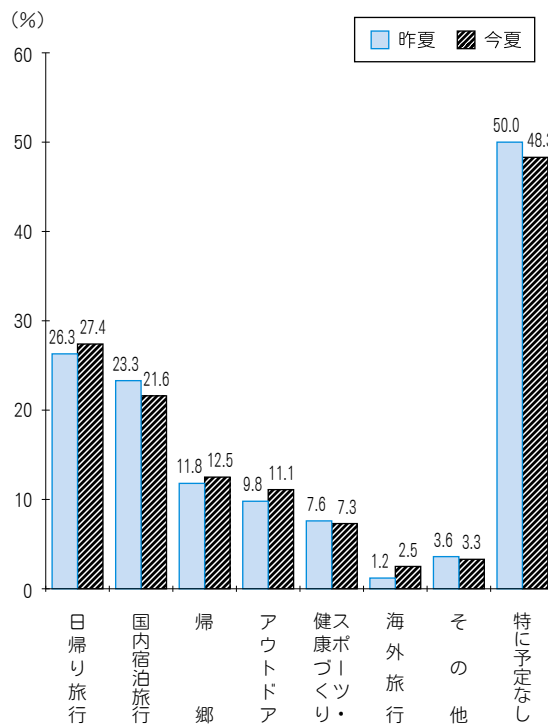
夏休みの過ごし方（複数回答）は、「特に予定なし」が48.3%と最多を占めた。以下、「日帰り旅行」、「国内宿泊旅行」、「帰郷」、「アウトドア」、「スポーツ・健康づくり」、「海外旅行」と続いた。

昨夏と比較すると、「特に予定なし」（昨夏比△1.7ポイント）、「国内宿泊旅行」（同△1.7ポイント）、「スポーツ・健康づくり」（同△0.3ポイント）が低下した一方、「海外旅行」・「アウトドア」（同+1.3ポイント）、「日帰り旅行」（同+1.1ポイント）、「帰郷」（同+0.7ポイント）が上昇した。なお、「海外旅行」の行き先としてはハワイのほか、シンガポールやタイなど東南アジアが挙げられた。

年代別にみると、「特に予定なし」を除いた場合、50代以上を除くすべての年代で1位が「日帰り旅行」、2位が「国内宿泊旅行」、50代以上は1位が「国内宿泊旅行」、2位が「日帰り旅行」となっている。昨夏と比較すると、40代の「日帰り旅行」、50代以上の「アウトドア」の上昇が目立っている。

「国内旅行」の宿泊日数をみると、「1泊」が41.5%を占め、以下、「2泊」（39.0%）、「3泊」（12.7%）となった。昨夏と比較すると「1泊」（同△10.3ポイント）、「3泊」（同△2.5ポイント）が減少した一方、「2泊」（同+11.3ポイント）が増加しており、平均宿泊日数は2.0泊（昨夏1.8泊）となった。

夏休みの過ごし方（複数回答）



夏休みの過ごし方（複数回答）

	全体 (%)	20代 (%)	30代 (%)	40代 (%)	50代以上 (%)
日帰り旅行	27.4	30.0	30.4	32.9	18.2
国内宿泊旅行	21.6	27.3	22.3	20.1	18.8
帰郷	12.5	9.1	17.0	12.8	11.5
アウトドア	11.1	12.7	10.7	8.5	12.7
スポーツ・健康づくり	7.3	3.6	10.7	7.3	7.3
海外旅行	2.5	1.8	4.5	2.4	1.8
その他	3.3	7.3	1.8	4.3	0.6
特に予定なし	48.3	41.8	42.0	45.1	60.0

(特別調査) 物価上昇・キャッシュレス決済関連

本調査では、物価上昇に対する対策とキャッシュレス決済の使用状況について伺った。

物価上昇への対策は「食費の節約」が1位

物価上昇に対し取り組んでいる対策（複数回答）については、「食費の節約」が47.2%で最多となった。以下、「ポイントの活用」、「光熱費の節約」、「外食の回数を減らす」、「燃料費の節約」・「衣料費の節約」（同順位）の順となった。

昨夏と比較すると、「ふるさと納税の活用」（昨夏比+5.4ポイント）、「ポイントの活用」（同+4.7ポイント）、「光熱費の節約」（同+4.4ポイント）などが上昇している一方、「燃料費の節約」（同△5.6ポイント）、「外食の回数を減らす」（同△4.9ポイント）、「衣料費の節約」（同△3.4ポイント）は低下している。経済活動が正常化するなか、燃料費や衣料費の節約が難しくなっている一方、ふるさと納税やポイント活用といった家計防衛策が増加している様子が窺われる。なお、「対策をしていない」は、22.1%と全体の5分の1を占めた。

年代別にみると、50代以上で1位が「光熱費の節約」、2位が「食費の節約」となった以外は、すべての世代で1位が「食費の節約」、2位が「ポイントの活用」となった。

半数以上がキャッシュレス派

キャッシュレス決済の利用状況をみると、「利用している」が78.0%、「利用したことはない」が16.9%、「利用したことがあるが、現在は利用していない」が5.1%となった。「利用したことがある人」は8割を超えており、キャッシュレス決済を活用した自治体のキャンペーンなどを背景に、利用機会が拡大している様子が窺われる。

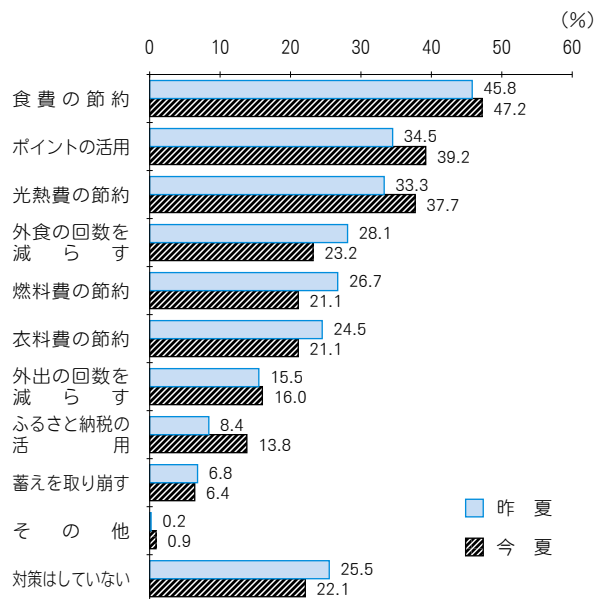
年代別にみると、「利用している」は30代が最も高くなっている一方、「利用したことはない」は50代以上で最も高くなっている。

キャッシュレス決済を利用している方に利用頻度を聞いたところ、「ほぼすべて」が54.7%、「現金決済と同程度」が33.7%、「特定の場面のみ」が11.6%となった。

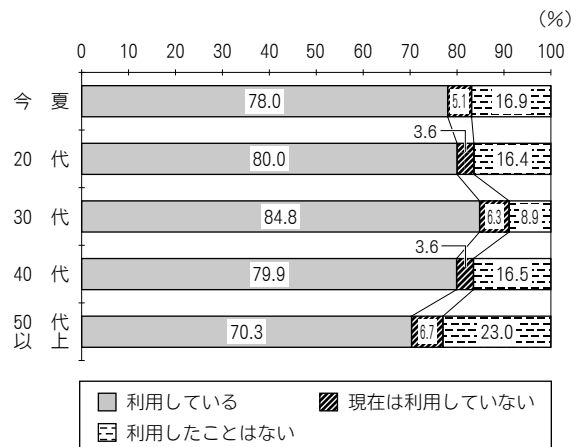
物価上昇への対策として取り組んでいることベスト5（年代別）

順位	20代	30代	40代	50代以上
1	食費の節約	食費の節約	食費の節約	光熱費の節約
2	ポイントの活用	ポイントの活用	ポイントの活用	食費の節約
3	光熱費の節約	光熱費の節約	光熱費の節約	ポイントの活用
4	外食の回数を減らす	衣料費の節約	燃料費の節約	燃料費の節約
5	ふるさと納税の活用	外食の回数を減らす	外食の回数を減らす	衣料費の節約

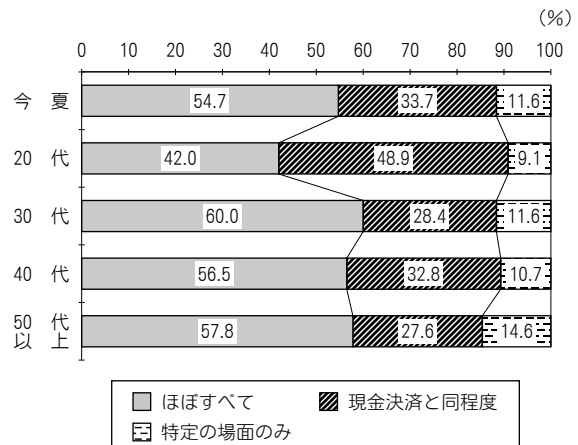
物価上昇への対策として取り組んでいること



キャッシュレス決済の利用状況



キャッシュレス決済の利用頻度



ご利用
無料

便利を tap! ヌビサキ Bank



山梨中銀アプリ

Yamanashi Chuo Bank

銀行の手続き、アプリでできました。



平野美宇 選手
(木下グループ所属)

お金の管理、スマートに!



SPORTING BEARS
©23 SANHO CO., LTD. APPROVAL No. L641417

ダウンロードはコチラ

山梨中銀アプリ

検索



くわしくは山梨中央銀行の窓口
またはフリーダイヤルへどうぞ
(受付時間)月曜日～金曜日 9:00～17:00(ただし、祝日・12/31～1/3は除きます。)

ふ れ あ い ハ ロ ー に
0120-201862

照会コード
2

山梨中央銀行

<https://www.yamanashibank.co.jp/>